

花嫁着付けの部 (着付師対象)

競技要綱

- (1) 申込規定 資格：着付師であること（年齢制限なし）。
- (2) 競技種目（ボディ競技）
和装花嫁打掛姿の基本的な花嫁着付け技術を基準とする。
- (3) 競技時間 体型補正から長襦袢の着付けまで……20分（監視員立会いの下、控室にて行う）
掛下を羽織らせるところから打掛姿のポーズ付けまで……25分（ステージにて行う）
- (4) 競技方法 競技は監視委員の指示の下、控室にて体型補正から長襦袢の着付けまでを20分間で行い、次にステージにて掛下を羽織らせるところから打掛までの着付けと、正面立ち姿のポーズ付けまでを25分間で行う。

(5) 競技規定細目等 ※違反者は、減点もしくは失格となります

《競技規定細目》

1. 助手はつけない。
2. 競技に使用するボディ・衣裳及び下着類・着付け小物は各自持参のこと。
3. 長襦袢を含む着付けの施術はすべて選手一人で行う。
4. 掛下・打掛の衿綴じは事前に済ませておくこと。
●打掛を押さえる肩ベルト・テープの使用は不可。
5. 補正用品
●事前に完成された補正用品の使用は不可。
●補正は、タオル・綿花・コットン・ガーゼさらしを使用して整えること。
●当協会でも販売している補正パットの使用は可。
6. 長襦袢・掛下の衿合わせを一時押さえる際に、当協会が提供している金具紐を使用することは可。
7. 掛下帯は平らな状態で屏風だたみにし準備しておく。
●帯の縫止めは不可。
●作り帯（完成品及び半完成品）の使用は不可。
8. クリップの使用は衿止め・袖止め合わせて7本以内とする。
9. ステージ上で衣裳・小物等を衣裳箱の外に出すのは、競技開始後とする。
10. ポーズ付け
●打掛ベルト・袖止めの使用は可。
●掛下の前の裾を整える為にクリップを使用することは不可。
●袖板の使用は不可。
11. 技術中及び型づけの修正に、ヘラ等の特殊な用具を用いることは禁止。

《選手の服装》

選手の服装は白の上衣、黒のスラックス、白又は黒のソックス（又はパンプスインソックスを着用・素足不可）、靴は脱ぎ履きしやすいものに限る（ピンヒール・サンダル・ブーツ・スニーカー不可）。

《持参物》

打掛、掛下、掛下帯、長襦袢、6点セット（帯じめ・帯あげ・抱え帯・懐剣・懐紙入れ・末広 それぞれ刺繍・飾りのついていないもの）、打掛ベルト、衿止め・袖止め（合わせて7本以内）
着付け小物（紐類・伊達締又は伊達巻・帯板・帯枕・補正用品等）
衣裳敷き（100cm×150cm）。
他必要品一式。
※おしゃれ帯板、衿飾りの使用は禁止。
※競技で使用する衣裳箱は当日配布します。

●衣裳は主催者側が用意し、出場者に貸し出しを基本とします。申込締切後、衣裳の希望を取り、希望が重複した場合には申込順を優先とし、決定した衣裳は送料着払いで大会約一ヶ月前に出場者宛に発送します。
尚、本人の衣裳の使用も許容とする。
※貸し出し物は芸術祭当日、大会終了後控室にて返却すること。
※貸し出し物の破損・紛失があった場合は、その程度により後日、弁償・請求させていただきます。

《当日の行動及び禁止事項等》

1. 当日の行動は監視委員及び誘導員の指示に従うこと。
2. 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
3. 用具等の忘れ物があっても大会本部から貸し出しは一切しない。
4. 他の選手に迷惑をかける言動をしたり、監視員の指示に従わない場合は退場を命じることがある。
5. 競技終了後、選手はボディに一切手を触れてはならない。
6. 審査終了まで手直しすることも一切認めない。
7. 助手の使用は一切認めない。
8. 大会当日、控室への出入は選手以外は一切認めない（ボディ及び衣裳の搬出入時に1名のみ可。但し、直ちに退出すること）。
9. 選手は結果発表まで控室で待機すること（作品撮影あり）。
10. 作品撮影の際は選手自身が形付けをして頂きます。
11. 表彰式の際は、指示された場所に速やかに移動すること。

※貴重品の紛失・盗難につきましては、主催者側では責任を負いかねますので各自充分にご注意下さい。

- (6) 審査事項 大会運営規則に基づき委嘱された審査員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、審査業務を行う。
- (7) 監視事項 大会運営規則に基づき委嘱された監視員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、監視業務を行う。
- (8) 採点精算 大会運営規則に定められた「職務要綱」に記載する。
- (9) 順位決定 順位の決定は審査員の採点の合計点に基づき、実施する。
- (10) 表彰 入賞者の数については、出場選手の数に応じて大会実行委員長が決定する。